目　次

はじめに　本書の課題と構成 ―― 1

1　沖縄社会にとっての「戦後」　1
2　引き裂かれる自治と復興　3
3　本書の構成　5

第Ⅰ部　混乱の中での模索 1945～49 年

第1章　収容所生活と自治の萌芽 ―― 13

1　収容所への隔離と基地建設　13
2　自治の出発点　20
3　食糧不足と米兵の暴力　23
4　基地に阻まれる帰郷　28
5　民政府の発足と自治の挫折　32

第2章　基地が生み出す地域の混乱 ―― 41

1　基地労働の恒常化　41
2　港湾作業とみなと村　46
3　米軍に占拠された村――北谷と読谷　50
4　戦場の残骸と通行制限　57
5　弾薬撤去と演習被害　62

第3章　自治の停滞と社会の混迷 ―― 73

1　政党の結成　73
2　復興に向けて掲げられる「我々」　79
3　労務供出と配給停止指令　83
4　占領批判の噴出　89

第Ⅱ部　交錯する多様な希求 1949～51年

第4章　基地の拡充とその影響 ―― 103

1　流入する援助と基地建設　103
2　閉ざされる帰郷の可能性　109
3　拡大する基地労働　112
4　基地へ向かう出稼ぎの波　116

第5章　日本復帰運動と自治の屈折 ―― 129

1　復興費が生みだした知事候補　129
2　農村復興の希求　133
3　復帰運動の始動　138
4　米国援助が生み出す潮流　143
5　地域社会の苦悩と青年層の動き　147
6　基地問題をめぐる相克　153

第Ⅲ部　破綻する協力 1952～56年

第6章　占領の継続と矛盾の噴出 ―― 169

1　琉球政府の発足と民主党の結成　169
2　軍用地政策への反発　175

3　基地建設現場の争議と労働立法　179

第7章　動揺する協力の論理 ―― 187

1　高まる復帰願望　187
2　土地収用令が生み出す亀裂　193
3　経済の行き詰まりと復帰運動　200

第8章　反共主義と軍用地問題 ―― 213

1　復帰運動への攻撃　213
2　反共主義の激化　219
3　軍用地代をめぐる思惑　224
4　新規接収の強行　228

第9章　協力の破綻と新たな動き ―― 241

1　プライス勧告の衝撃　241
2　日本への期待と懐疑　245
3　表面化する亀裂　249
4　運動の退潮と新たな起点　252

おわりに　本書の視座とその射程について ―― 261

あとがき　265
参考文献　269